

様式 1

研究報告書（平成 26 年度）

提出者 藤川直也

提出年月日 平成 27 年 4 月 7 日

【本ユニットにおける研究テーマ】

和文 西田幾多郎の絶対無に関する分析アジア哲学的研究：矛盾許容的な素朴集合論の観点から

英文

Nishida' Absolute Nothingness: Form a view point of paraconsistent Naive Set Theory

【研究のねらいと目的】（600 字程度）

本研究では、アジア圏の哲学を分析哲学の道具立てを用いて理解する、あるいは分析哲学において論じられている問題にアジア圏の哲学のアイデアを用いて取り組むという研究領域である分析アジア哲学の研究動向を踏まえ、西田幾多郎の場所の論理と絶対無の概念をとりあげ、とりわけ中期西田の著作に注目しつつ、それを非古典論理の一種である矛盾許容論理の観点から理解することを試みる。絶対無の主要な特徴（すべてのものがそこにおいてある場所という包括性、自分自身がそこにある場所、自分自身を映す鏡であるという反射性）に対して、矛盾許容論理上のメレオロジーの観点から、一定の説明を与えることを目標とする。同時に、西田幾多郎の絶対無の概念とマルティン・ハイデガーの無の概念との比較も行う。

【研究業績】 学会報告・論文など

論文

Fujikawa, N. (2014). 'The Semantics of Intensional Transitive Verbs in *Towards Non-Being*', *Contemporary and Applied Philosophy*, Vol. 6, 1-15.

Casati, F. and Fujikawa, N. (2015). 'Better than Zilch?', *Logic and Logical Philosophy*. (online first article)

学会発表(下線が発表者)

Casati, F. and Fujikawa, N. (2014). The complement of the Totality: A paraconsistent mereological approach, *Logica2014: 28th in the series of annual international symposia devoted to logic*, Hejnice Monastery, 16-20 June 2014.

Casati, F. and Fujikawa, N. (2014). 'The Self-Grounding Nature of Being and Nothingness', The 2nd Conference on Contemporary Philosophy in East Asia, Kyoto University.

その他

Casati, F. and Fujikawa, N. (2014). 'Book Review: Graham Priest, *One:Being an Investigation into the Unity of Reality and of its Parts, including the Singular Object which is Nothingness*', *Logic and Logical Philosophy*. (online first article)

【成果の概要】 (800字程度)

前年度の研究を踏まえ、本年度は、セントアンドリュース大学の Filippo Casati 氏との共同研究を通じて、特に次の二点に関して成果をあげた。

(i) 前年度の研究では、西田の絶対無とハイデガーの無について、無／絶対無はすべての対象がそこに基礎づけられるような基礎的なものであるということ、さらに無／絶対無が、対象であると同時に対象ではないという矛盾する性質を本質的にもつということを明らかにした。本年度はこの研究をふまえ、西田とハイデガーの無がもつこうした特徴を、現代形而上学における基礎づけ (grounding) の議論と関連付けて論じた。特に、無が対象ではないという特徴は、対象に対して基礎づけられていない基礎を与えるという点で、foundationalism (基礎づけ関係は well-founded であり、無限後退やループを含まないという主張) を支持すると同時に、無は対象であり、自分自身を基礎づけるという特徴ももたざるを得ないために、彼らの無は anti-foundationalism も帰結すると論じた。

本研究の成果は、Casati, F. and Fujikawa, N. (2014). 'The Self-Grounding Nature of Being and Nothingness', *The 2nd Conference on Contemporary Philosophy in East Asia*, Kyoto University.において発表した。

(ii) 前年度の研究では、西田の相対無の絶対無を区別に、矛盾許容論理上のメレオロジーを用いた表現が与えうるということを明らかにした。今年度は、そうした矛盾許容論理上のメレオロジーにおける無の一つのモデルであるあらゆるもののメレオロジー的和の complement について、主に形式体系におけるその振る舞いの観点から考察した。

本研究の成果は、Casati, F. and Fujikawa, N. (2014). The complement of the Totality: A paraconsistent mereological approach, *Logica2014: 28th in the series of annual international symposia devoted to logic*, Hejnice Monastery, 16-20 June 2014.において発表した。

【通信欄】

